

# 名門復活! 福島の新しい歴史をつくる! 学法石川高校 硬式野球部の挑戦



学法石川高校硬式野球部に、甲子園で数々の実績を誇る佐々木順一郎監督が就任し、8か月。部員たちは日々たくましくなり、“気持ちで負けない選手”が増え、「勝てるチーム」へと成長し始めました。春季高校野球福島県大会では準優勝し、東北大会に出場とチーム力も向上。「野球も人生も同じ」という佐々木監督のユニークな指導のもと、夏の福島県大会を前に、名門復活にかけるチームのいまをレポートします。

素晴らしい人間が  
素晴らしいチームをつくる

現在、石川町内で暮らす佐々木監督。学校では倫理社会を教える先生でもあります。「食事や散髪へいくたび、皆さんの野球部に対する期待と愛着を感じます」。20年来遠ざかっているものの、通算12回(春3回・夏9回)の甲子園出場は地域の誇り。「ふたたび全国へ」という期待の声に、「一所懸命に応えたい。部員にもいっしょに甲子園を目指そうと話したいです」。

しかし、現部員たちにとって、母校の甲子園出場は生まれる前のこと。「これから。これからの大切なんだよ」。今年のテーマに掲げた「From now on(これから)」は、「勝つためには、勝つことより大切なことがある」「素晴らしい人間になれば、素晴らしいチームはできる」という指導者としての信念の表れです。

映画から人生を学ぶ  
野球に向き合う意識を変える

監督と部員たちには、SRCという3つの約束があります。Sはスマイル(笑顔)、Rはレスポンス(反応)、Cはチェンジ(変化)。就任当初は、「どんなチームかを見ていた」という監督。「打てれば喜び、打たれればがっかりする、素直で真面目な子が多い。人として当たり前の反応ですが、野球も人生も一人では成り立ちません。打たれても、がっかりしない。あきらめない。『他の人やチームを考えたレスポンス(反応)』の大切さに気付いてほしい。その手立ての一つが、映画鑑賞です」。アメフトがモチーフの『ルディ』、同じ世代の若者が日本を守るため戦った『男たちの大和』、今年の野球部のテーマのもとになった『グレイテスト・シヨーマン』、家族の絆を描くディズニーマovie『リメンバミー』。はじめは戸惑っていた部員たちも、ストーリーに自分の体験を重ねるようになり、監督が伝え

ようとしていることの意図を少しずつ感じるようになっています。

さらに、監督のユニークな指導は、ふとした発言にも。

ある時は「この試合は苦しくなるな」、またある時は「最後に、お前に大事な役が回ってくるぞ」とベンチでつぶやく。その言葉が現実になるたびに絆は深まり、部員たちの意識も徐々に変わってきました。

夏の大会目前!  
甲子園出場をめざし  
変化を怖がらないチームに

価値観の共有が進み、迎えた今シーズン。「笑顔のいいチームになった」と佐々木監督。春季県大会の準々決勝では、9回に劇的な逆転サヨナラ勝ちでした。終盤ギリギリまで負けていても、よくよしたり、ベンチが暗くなることはなかった。意識が変わり、着実に勝てるチームになってきていると思えます」と笑顔がこぼれます。

「勝つようになる、変わることを怖がるようになる。勝った時、調子のいい時ほど、一人一人がチェンジ(変化)できるチームを目指します」。



明るくはつらつとした笑顔で練習に励む  
総勢100名の部員たち。  
名門復活をかけ、夏に向かって、がんばれ!  
学法石川高校野球部!



▲爽やかな青空に響く快音と、元気なかけ声が響く学法石川の野球部グラウンド



佐々木順一郎 監督

1959年宮城県生まれ。仙台育英高校監督時代に春夏通算19回の甲子園出場。2001年春、2015年夏は準優勝の輝かしい実績を持つ名将。モットーは『運命を愛し、希望に生きる。本気になれば世界は変わる。いいオヤジになれ。』



伊東美明 部長

監督の意識改革で  
考えるチームになった

佐々木監督のもと、それぞれが自分の意見を言い合える、いいチームになってきました。監督は、預言者みたいな人。言った通りのことが、本当に試合で起こるので、選手たちもスタッフも「この人について行っていんだ」と確信しています。いまは監督の(感動の)涙をみたい!この出会いを大切に、さらに上を目指します。



桑山武冨志 キャプテン

福島の歴史を変える  
ために夏に向けて  
前進します!

春の県大会で「できない」と思っていたことができるようになり、大きな自信になりました。チーム全体の練習だけでなく、自分達から自主的に練習時間を作るようになっています。夏の大会の目標はもちろん甲子園出場!「福島の歴史を変える」ために最後まで笑顔でプレーします!

